

全醸造元

清酒 鶴仙

石城郡平窪村

松吉屋本店

電話二四二番

●新着發賣!!

「印除虫粉

「印のみごり粉

「印蚊ごり線香

斯界の權威たる最優良品好評噴々たり御愛顧使用を謝す

紀洲大正除虫粉

株式會社

代理 西村屋藥舖

平町二丁目電話三番

●雨近キ入梅期ニ

オ子サン方

通學ニ便利デ

經濟デ然モ堅牢ナ...

防水マント

尺八寸 二四〇〇
 二尺二寸 二六〇〇
 二尺四寸 二八〇〇
 二尺六寸 三〇〇〇
 女學生用モ有リマス

に鶴屋商店

電話百四十番

貸家
 新川町十七番地
 表通商店向
 新川町十八番地
 裏家二戸建
 新川町 中野勇吉

第二病室 高久病院
 院長 醫學士 高久忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽清
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
 平町田町電話五一三番

美味しい ヤトモツマ
 森永フキンガービスケット
 一函六十枚入 四十錢
 日丁四 番二一四電

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院
 平南町(電話一七〇番)

痴人の手記 布製美裝四
 定價一部金二圓 六判二百頁
 發行所 磐城之實業社
 平町古鍛冶町 電話五二二番

書生至急入用 原齒科醫院
 院長 東京齒科醫學士 原精一
 副院長 醫學士 石田仁
 平町土橋通り電話三二番

外科 婦人科 赤心堂病院
 平町字田町 電話四七五番

貸家廣告
 白銀町 勤人向 二間 十圓
 同 商店向 二間 十八圓
 同 商店向 六間 三十圓
 同 醫院事務所向 五十四圓
 同 旅館向三階建 九十五圓
 北白銀町 勤人向二間 五圓半
 仲間町 同 三間 四圓
 同 同 三間 四圓
 同 商店向二間 十圓

加藤營業所
 白銀町(電話三三番)

遠藤パン

平町南町 看護婦會
 電話三〇七番

●實用的和服洋服教授
 婦人子供の洋服
 一般和服
 フランス刺繡
 スピン編み
 叶多裁縫女塾
 平町字南町(青木寫眞館前)
 叶多チエ子

吉田眼科醫院



刊夕日一十二月六

常警論壇
 人口調節と移民の價值 (五) 布川靜淵
 歐洲諸國が移住すべき新地を發見獲得し以て盛んに移住したる結果として人口調節せられたりとのみ見るべきでない。愛蘭の一國を除き特に移民の爲めに人口減少せる例を見ること出來ない事情にある。露國と北米の二國は急激なる人口増加國として例外に屬し緩慢の増加状態を示すものに西班牙、葡萄牙、佛蘭西のラテン民族國及北歐の瑞典、諾威等あり、獨逸亦顯著な

る増加國にして英吉利、伊太利は各順調の増加を示して居る、而して日本帝國は五十年にして二倍の増加を示すは相當の理由ある。第十九世紀以來歐洲文明國中人口減退の傾向を示せるは佛國のみにして他に見當らない。若し米國其他に移住なかりせば歐洲諸國の人口更に一層の人口増加ありしならんと想像するは果して正當なりや。

あるによる。中に増加の緩慢なるあり徐々たるものあるは移民の爲めよりも寧ろ他の事情が伏任して居るからである。何ぞや、曰く出生率減退の一大事實之れである。今日歐洲諸國は勿論濠洲、ニウゼイランド、北米合衆國等を擧げて、出生率減退の現状を示さぬ國はない。こは第十九世紀後半より顯著となつたものである。此出生率減退は全く内部的事情にして之が歐洲の人口調節として作用せる主要原因である之を海外移民によりて解釋せんとするならば、統計の事實に反する(つゞく)

梅の湯にて眞ッ裸の

野崎滿藏氏斬らる

五十數針の重傷

加害者は自首す

今朝新田町の椿事

新田町南裏料理店初音の前迄
逃げて去れ るを見定
め直ちに血みどろの儘にて
平警察署に自首し出で小熊
警部補の取調べに對し悪び
れたる様子もなく兇行の顛
末を自白に及んだ

梅の湯にて

兇行の顛末

最初に目つぶし

兇行の顛末を聞くに加害者
深谷は野崎氏と同じく梅の
湯に入浴し一足先き上つ
てシャツを着し袖然と

待ち構へ

野崎氏が入浴を済して脱衣
場の窓口に涼風を入れんと
せる様子を見定め先づ「君
は野崎君か」と質ねて背
くを見るや傍らにあつた火
鉢の灰を握つて矢庭に目つ
ぶしを喰はし野崎氏がひる
む隙に振りかざした兇器の
山刀にて 右肩に深
く斬りつけ更らに右腹を目
掛けて搔斬り兇器をもぎ取
らんとあせつた野崎氏の兩
手其他を滅多斬りと爲し逃
げんとせる背後から又々鉈
を浴せ掛けた、斯くて加害
者は野崎氏が眞ッ裸の儘で

肉切り山刀

前日から用意

加害者深谷の使用した兇器
は鋭利なる肉切り山刀にて
昨日某商店から買ひ求め懷
中に潜ませて居た事を自白
に及んだ由であるが及渡り
約三寸五分、證據品として
血汐にぬれた儘小熊警部補
の机上に薄氣味悪い底光り
を放つて居る

常日頃の

加害者深谷

加害者深谷を知れる者の語
る處に依れば同人は腕力人
に優れ「八幡山」と名乗つ
て平地方の素人相撲中に於
ける仲々の手取りに屬し常
に「俺れは別段に取り處の
ある人間ではないが力は割
合に有るから此力を利用して
何か
世の爲め になる事

をやつて見度い」と口癖の
様に云て居たとの事である
然して過般警城銀行に對し
故意に信用を傷けんとせる
記事を掲載せりと憤慨し警
城經濟新報社の鈴木昌雄君
を毆打したのも同人である
といふ

野崎氏重態

面會は禁止

被害者の野崎氏が赤心堂病
院に收容された時分は頗る
昂奮せるものの如く語氣も
中々に荒かつた由であるが
入浴直後に重傷を受けた事
とて出血をびたゞしく漸次
脈膊急を告げ程なく顔色蒼
然と化した爲め面會は禁止
された、見舞客の一人は「野
崎君は心臓が常に弱く殊に
梅雨期の傷の事でもあるか
ら餘程の注意を要するもの
であらう」と語つて居た

原因取調中

果して如何

原因は其筋に於て嚴重取調
に屬する事で未だ詳らかで
ないが誰單純な私憤に駆ら
れて斯かる刃傷事件を惹起
したものでないとの噂が



家庭欄

オペラパツク

オペラパツクは以前は手に
わざ／＼提げたものを今日
ではその位置が高上したも
のか誰も洋装の腕もあらは

反對側では

事件を深憂

野崎滿藏氏は人も知る如く
平町の水道を脅ややす大瀧
發電所計劃の張本人にて町
民の多數からは常に白眼視
されて居たが發電所計劃に
對し反對の立場に起ち悉く
野崎氏と意見を異にする某
氏は今回の兇行に關し左の
如く語つた

野崎君が其態度を改めず
して平町の利害を省みぬ
とすれば必らず精神的に
社會から葬られる日が來
る、故に此際鐵拳や兇刃
を以つて同君の身邊に危
害を及ぼさしめねばなら
ぬ様な必要は毛頭ないの
である然るに今日突如と
して此椿事を耳にするは
遺憾千萬で同君に對し甚
だ氣の毒な感なくんばあ
らざるであるが今更に見舞
に行つても寧ろ皮肉に取
られやしないかと考へて
居る

比較的に
樂觀を許さる

兔の耳

銀色の大蛇 茨城
縣眞壁郡嘉田生崎
村大字石田荒井金
藏(五)が廿日朝同
村地内小見川沿岸鹿島神社
附近でまぐさを刈つてゐる
と突然藪かげから悲鳴が聞
えるのでかけつけると太公

募集

文藝其他投稿
を募集します

望をきめこんだ二人の男が
眞ッ青になつて慄へてゐる
ので何事かと傍を見ると目
の前に長さ一丈餘直徑三寸
位の銀色の大蛇が今にもと
びつかんとしてゐるので三
人とも腰をぬかさんばかり
になつて逃げ歸つた

石城の事業界

大正七八年常盤炭田界黄金
時代にあつて無制限に創設
にむき出された二の腕のあ
たりまで行つてゐる然し洋
服ならまだしも道行く和洋
の袖の中に忍ばせるにも及
ぶまいと思ふ。オペラパツ
クは自然に手首に近く提ら
れるやうになつたのも道理
であらう。さうした形こそ
日本女の歩くポーズとして
誠に恰好のとれたものです

學校と連絡統一を

圖つて圓滿な教育

平第一小學校から

父兄方へのお願い

平町第一小學校長曾我直
治氏は今回學校から家庭
へのお願ひと題した左の
如き印刷物を配布すべく
計畫中である

一學期もすでに半ばを過ぎ
四月入學した子供たちも最
早大分學校に慣れその個性
といふものがわかるること
なつた一体個性といふもの
ははじめ非常によく後
悪くなるのもあればはじめ
悪くても後に
非常に よくなるの

子供が

悪いとか或
は學校の教育が悪いとかで
はない、その最大理由は個
性の關係にある要は學校と
家庭とが一丸となつてその

子供が如何なる個性をもつ
てゐるかを確實に見分けを
つけそれに適した教育を施
すべきで昔風の昔

氣質の

教育法は百
害あつて一利なく益々子供
を悪くするばかりである故
にこの精神を凡ての家庭で
あくまで承知してもらひた
い、子供の學校に居る時間
は一日の十分の一で大半は
家庭にあつて暮すもので子
供の精神状態即ち

個性を

知るものは
家庭の父兄より外ないそこ
で家庭の父兄は何事によら
ず受持教師と相談をなす眞
によい圓滿な教育を施すや
う努力してほしい學校は學

効果は

決してあげ
ることは出来ない、學校で
はもして子供が運動場で少
い負傷をしたやうな場合で
も一々その家庭へ報告をな
しつもらないことでも學校
と家庭が一身同体であらね
ばならないといふことにつ
とめねばならない

委員が分擔

審査を進む
平町にては既記の如く本日
午前十時より戸數割賦課及
び青年訓練所設置に關する
協議を遂げたが戸數割賦課
に關しては左記の如く各區

- 域を委員が分擔して審議を
進むる事となり午後一時よ
り委員會に移つた
- △一區(新川、長橋、材木
研古、搔搦小路、紺屋) 佐
藤芳松、加納五郎、會川卯
三郎、阿部太平、吉田五平
 - △二區(一丁目より五丁
目迄、鍛冶、大工、舊城跡)
柏原眞吾、井上茂作、阿部
唯次郎、星野清吉、應崎眞
術、渡邊貫一、大谷久藏、
丹野榮三郎、青沼鐘太郎
 - △三區(南町、新川、月見
堤の内、立町、鎌田) 荒川
淺次郎、大森勇、松崎菊三
郎、佐藤岩次郎、萩原義雄
 - △四區(田町、南北白銀、
鐵道官舎、仲町、北目、胡
麻澤、久保、八幡小路) 岩
本重雄、櫻井清、森本盛一
 - 野崎滿藏、永山義太郎、佐
々木龍若、花澤久一郎